

**G** **L** **O** **B** **A** **L**  
**N** **I** **G** **H** **T** **T** **I** **M** **E**  
**R** **E** **C** **O** **V** **E** **R** **Y**  
**P** **L** **A** **N**

CHAPTER 3

24 時間都市のためのイノベーション

# CONTENTS

- INTRODUCTION / はじめに : 24 時間都市のためのイノベーション
- ACTIVATION / 24 時間都市のためのイノベーション  
CASE STUDY : 安全で歓迎され、遅れてオープンするシドニー
- LLUMINATION / 明かりを照らし続ける  
CASE STUDY :  
ロンドン、キングスクロス - フェアリーライトから光の祭典まで
- MOVEMENT / 都市への夜間アクセス支援  
CASE STUDY :  
インド・ムンバイ - 女性のためのより安全な生活、すべての人のためのより安全な生活
- SUMMARY - 想像力、勇気、強固な連携
- 参考文献
- 協力者
- チーム

## はじめに：24 時間都市のためのイノベーション

都市における夜の価値は、経済的、社会的、文化的な幸福に貢献している重要なものとして、ようやく認識されるようになってきた。夜は、その都市に住む人々や訪れる人々によって経験され、目には映りにくい労働者たちの労働によって構成されている。エンターテインメント産業であれ、交通機関であれ、私たちは都市を私たち全員にとってより良く機能させる必要がある。

本章では、Covid-19 の時代に、安全で魅力的な都市の「夜」を創造する上で直面する問題、特に「第二波」来襲によるさらなるロックダウンや地域における規制の問題について検討する。夜を中心とした計画、デザイン、政策に関わる人々は、解決策を提供するための立場にある。

本章では、**3**つのセクションを通して、市民が安全に夜の都市に戻ってくることを歓迎するための解決策を提示する。



夜間帯におけるストリートと  
スペースの活性化



過小評価されているが  
重要なイルミネーション（明かり）  
の持つ役割を顕在化



夜間帯における都市の移動への  
より包括的なアプローチの開発

社会の規範が急速に変化している状況下で、自治体や企業、交通機関、等がこれらの変化に積極的に対応していくことが求められる。また、この章では、過去 **10** 年間、夜の都市の創造に向けて使われてきたツールや技術が、夜の回復、そして都市全体の回復にどのように役立つかを示している。

## 問題提起

Covid-19 禍において、夜の都市は昼以上に苦しい状況に置かれているように見えるが、それはナイトライフや芸術、文化が制限されているからだけではなく、都市戦略の検討や、資金提供のプロセスにおいて、夜の経済が後回しにされることがあまりにも多いためである。Covid-19 により、これまで明るみにならなかった「ナイトタイム」の時間的な不公平が顕在化されたのだ。このような前例のない時代は、夜に情熱を傾ける企業家、政治家、都市計画家、芸術家、研究者、地域の活動家などにとって、社会的な疎外に異議を唱える機会を創り出した。Covid-19 からの復興そしてその先を見据えた都市計画やルール作り、運営において、夜の時間帯が組み込まれるのであれば、その変化は永続するものになるだろう。

移動手段・交通機関は、都市が機能するための重要な要素だ。ロンドンのような都市が 24 時間営業の地下鉄サービスを停止した時代であっても、私たちは 24 時間機能する持続可能で公平な移動のソリューションに焦点を当てることをやめてはならない。世界の都市は、これまでにない新たな方法で考え、計画やプロジェクトを迅速に進め、危機に対応することを求められている。政策の変更であれ、物理的なプロジェクトであれ、この期間の一時的で実験的な取組を都度評価し、効果がある場合には、これからの夜間の都市に恒久的に統合されることが重要だ。



パンデミックの間、多くの人は外出ができなくなった都市で生活を続けるしか選択肢がなかった。人々は安全が確保されなければ外に戻ってくることはない。昼夜を問わず、「安全」を都市に戻すことが社会の復興に不可欠である。

世界中の多くの都市では、Covid-19 以前に比べて 70% も外出する人が減少している状況に悩まされており、これは特に都市の中心部や文化・ナイトライフが集まる繁華街で顕著だ。現在は経済的にも社会的にも文化的にも切迫した状況である一方で、私たちには考える時間を与えてくれたと捉えることもできる。

イノベティブで柔軟な発想が、都市空間を 24 時間フルで活用するために役立つだろう。

このプロセスは、ソーシャルディスタンスを置いた屋外のイベント等小さいレベル（マイクロレベル）で始まった。（第 1 章 屋外空間と音響の管理と第 2 章 ダンスフロアの未来を参照）。一方で、私たちは人々を都市に呼び戻すような、大きなスケール（マクロレベル）での革新的な都市の活性化戦略も必要としている。

## i. 活気：都市の夜を魅力的にする

### ANIMATION: Making our cities attractive at night

Covid-19 による危機の前から、多くの都市や繁華街では、24 時間都市を実現するための戦略的なアプローチの開発に苦戦していた。

世界の大都市が、夜間の活動に批判的な人々の対応に苦勞しているとすれば、それは多くの都市や街にあてはまるだろう。都市の夜をどうしていくかといった計画は、Covid-19 の影響を最小限に留めるために必要不可欠であると同時に、多様で包括的な未来の都市を創造するためにも必要不可欠である。

人々は、夕方や夜に外出したいと思っているが、これまで利用できた活動の範囲は非常に限られている。私たちがまだ活発な都市の夜を望むのであれば、今はじっとその誘惑に抵抗しなければならない。

行政や企業、芸術、地域コミュニティなど、多様な人々を巻き込み、その場所に根ざした復興戦略を立てられる都市は、その他の都市よりも回復に成功する可能性が高いだろう。

## ii. より長く、より遅くまで：夜を促進するための規制の柔軟化

私たちは、すべての場所に 24 時間都市のコンセプトを提唱しているわけではない。むしろ、各地域がどう柔軟に規制緩和に対応することが可能か、それがどう営業時間に関する長期的な変化や市民の習慣をかえることができるかを示したい。

店舗、マーケット、サービスなどが、夜遅くまで営業していることが当たり前の都市もある。ニューヨークはよく「眠らない街」と言われたり、アジアやラテンアメリカの都市ではナイトマーケットといった夜遅くまで飲食や買い物をする習慣が一般的になっている。一方で、一日の活動が伝統的に早く終わる都市も多くある。いずれにせよ、Covid-19 による危機は、「24 時間都市」という概念が一次的に中断されたことを意味する。世界中の都市で、夜の活動が少ないほどウイルスの感染を抑えられるという仮説のもと、ロックダウン（外出禁止令）や営業時間の短縮が実行されている。ベルリンは過去 70 年で初めて外出禁止令に直面した。ニューヨークの地下鉄は、1904 年の運行開始以来初めて 24 時間運行を中断した。これらの中断は、公共交通以外の移動手段に頼ることができない夜間労働者に、深刻な影響を与えた。

このような状況下で、人々が安全に楽しみ、再び自分たちの都市を移動できるように働きかけることが大切だ。（現在の地方および国の規制の範囲内であればの話だが）。

幸いなことに、すでにいくつかの都市では、既存の規制にイノベティブな解決を見出す余地があることに気づいている。或いは、政策を柔軟に変化させることで短期的な変化を起こすことができると考えて始めている。そしてこれらは地域に受け入れられれば恒久的なものとするのも可能性だ。

地域社会の課題（騒音、ゴミ問題など）が、深夜営業の事業者またはその顧客によってもたらされていた場合、これらの問題は軽減されている可能性が高く、営業時間や規制を見直す機会となっている。それと同時に、住民にとっては騒音が減り、警察の仕事が減っている状況であるとも言える。どちらも再び増加する時には反発があるだろう。



PHOTO: ADAM NIESCIORUK



PHOTO: HESHAN PERERA

また、今都市計画の在り方が再び注目されている。ナイトタイムエコノミーに関する政策や規制は、ナイトタイムアクティビティに関する空間的な制限だけでなく、その持続性においても鍵を握る。都市計画の意思決定者は、夜の復興を促進するだけでなく、多様性のある夜の都市を開発するために、計画や政策をどのように変更できるか検討する必要がある。

オフィスへの需要はパンデミック前のレベルには戻らない可能性が高いため、商業用地が優勢な都市部では、土地利用の再検討に大きな圧力がかかるだろう。現在の土地利用の用途を代替するものは何なのかを理解するために、土地利用の研究を行う必要もある。都市中心部の住宅用地の転用は、新たな居住者が夕方や夜間のサービスを利用する新たな利用者ともなるためポテンシャルが高い。それと同時に、新しい居住者は、夜間の土地利用に対して直接利害関係を持つため、ナイトタイムアクティビティに関する摩擦をもたらすこともあるだろう。新たな居住者は、変化をもたらす主体として保護されるべきであり、既存のナイトライフやまちづくりとの統合といった課題を伴う。

また、夜間の活用は娯楽や消費だけでなく、労働を伴う。夜遅くまで働く人や夜遅くに帰宅する人にとって、夜間に利用できる公共サービスは貴重であり、救世主となりうる。パリ市長、アンヌ・ヒダルゴによって広められた「15分都市」のコンセプトは、誰もが必要とするサービスを昼間も夜間も徒歩圏内の近隣で受けられることが鍵となっている。パンデミックにより、多くの人々の交流や施設の利用がローカライズされ、近隣の重要性が確実に高まった。しかし、「15分都市」のコンセプトが昼間だけに適用されるのであれば、これは意味がない。夜間でも、明るい視認性、質の良い歩道、休憩のための立ち寄り場所があれば、歩きやすさを促進することができる。同市ではすでにデベロッパーが、歩行可能な15分都市のコンセプトを計画に取り入れ始めている。

世界には小売店やナイトマーケット、消費者向けサービスが夜遅くまでオープンしている地域が多くある一方で、閉店時間を早めている都市や地域も多く残っている。シドニーやベトナムが現在実験中であるように、小売、ナイトライフ、サービスの閉店時間を慎重かつ適切に緩和していくことで、Covid-19からのビジネス、社会、文化の復興を支援すると同時に、より実行可能で機能的なアフター・ダーク・シティを開発することができる。

## iii. コミュニケーション：市民に提供されているもの

日没後の安全な街を作るための鍵は、自分たちに何が提供されているのか、安全のために何が行われているのか、どうやって移動するのかを市民の誰もが知ることができるようにすることである。パンデミックからの復興期には、消費者、住民、労働者の態度や行動を定期的に調査し、これらのセグメントに合わせたコミュニケーションを行い、彼らが自分たちに合った安全な方法で夜の街に参加するためにはどうしたら良いか、そのモチベーションを分析する必要がある。

分析の対象となる人々は以下のグループにセグメントできる。

- 仕事をするために外出しなければならない人。
- 外出したいと思っていて、何があっても外に出たいと思っている人
- 外出したいけど、外に出るのが怖い人、健康に自信がない人。
- 外出よりもステイホームが楽しいと思っている人（お得な情報などの誘惑があればたまに外出する人）
- Covid-19 以前から、ほとんど外出しない、あるいは全く外出しない人たち。

このようなセグメンテーションを利用することで、人々が夜の街に（再）アクセスするためのコミュニケーション戦略をたてることが可能である。

"ポスト・Covid-19 の都市は、生活文化の創造とより良い都市主義のために、ナイトタイムエコノミーを取り入れなければならない。活気あるナイトライフとナイトマーケットを備えた 24 時間営業の都市は、クリエイティブシティの重要な要素だ。夜間に活気のある都市は、多くの人の目の監視により安全な都市であることも多い"

- PRATHIMA MANOHAR, THE URBAN VISION CEO

都市	解決策
中国	中国政府は、Covid-19 から夜間需要回復のために消費型アプローチを推進しており、販売店の営業時間を伸ばすだけでなく、サービス業の営業時間（医療センター）を伸ばすなどしている。
オーストラリア・ニューカッスル	オーストラリアニューサウスウェールズ州政府は、レストランの深夜営業や、小さなバーが午前 2 時まで営することを認める試験的な試みとして、「ロックアウト・ライセンシング法」を緩和した。

イギリス・ロンドン

イギリス・ロンドンのバーモンジーでは、地元のレストラン、バー、ショップ、サービスが一堂に会して夜の割引サービスを提供するネイバーフッドマーケティングキャンペーンを実施。

様々な都市、ベトナム

ベトナム政府は、サービス、エンターテインメント、ナイトマーケット、レストランの営業時間延長にむけた検討を促進したいと考えている主要都市のためにフレームワークを開発。

イギリス・ロンドン

ロンドン市長は、夜間営業のコストとメリットなど、営業時間の延長に関する調査を実施。店舗やサービス業が営業時間を伸ばすためのツールキットの開発を含む。(2020年10月)



" 旅行や移動規制とソーシャルディスタンスは都市のナイトタイムエコノミーに多くの課題をもたらしてきた一方で、新しい夜の風景の開発に向けたインセンティブともなり得る。夜の生活と娯楽の場はこれまで、計画的なゾーニングによって住民の住むところから離れた特別な地区に分離されてきた。より多くの人々が自宅で仕事をし、公共交通機関の選択肢が夜間の都心からの移動に制限されるようになると、CBD は新たな居住者を得ることができ一方で、周辺の地域住民はその文化や娯楽の復興を目撃することになるかもしれない。ナイトライフ、レジャーセンター、クリエイティブスペースなどの娯楽施設を分散させることは、密集したエリアでは実現できなかった、中間的な規模と密度のエンターテインメントハブを生み出すだろう。"

- ANDERENIA SEIJAS

## CASE STUDY : 安全で友好的な営業時間延長に成功したシドニー

オーストラリアニューサウスウェールズ州の州都シドニーは、過去数年間、ナイトライフに関する課題を抱えていた（例えば、州が定めた「ロックアウト法」など（2014年から、2019年に改正）など）。しかし、ニューサウスウェールズは現在、24時間都市のビジョン策定、計画、データ収集、効果測定の最前線に立ち、24時間都市を志す他の世界的な都市にとっての心強いモデルとなっている。

33の協議会で構成されるシドニー市議会は、2013年2月以来、シドニーの夜のビジョン「オープンシドニー戦略」を実施し、主導権を握ってきた。2019年6月には市議会は夜の街の営業時間延長、革新と拡大を促進するための新しい政策を発表した。

これには次のようなものが含まれる：

- ・ 市内中心部が午前5時までではなく24時間営業できるように計画方針を変更する（同様に深夜鉄道運行とライトレールシステムも24時間対応）
- ・ 特定の地区での店舗やサービス施設の営業時間延長
- ・ アレクサンドリアの工業地帯の一部における夜間営業を行う全く新しい文化地区の計画

2020年8月、市議会は、店舗や文化活動の承認を合理化し、クリエイターや軽工業メーカーが夜を盛り上げるため商業地区に戻ることを可能にするよう、ゾーニング規制を見直した。また、住宅開発の侵食からベニューの音響権を保護するための新たな提案を発表した。ニューサウスウェールズ州政府は、シドニー市のリードに続き、2020年9月にグレーターシドニー全体を対象とした「シドニー24時間経済戦略」を発表した。この革新的な文書は、夜間労働者のための交通機関、ショッピング、ヘルスケア、公共サービスを提供することの重要性を強調しています。また、24時間対応の「Coordinator General」を導入し、Activate Sydney @Nightプログラム（夜間の提供を拡大するため近隣地域に与える助成金）に資金を提供している。すべて共通しているのは、24時間都市はもはやナイトタイムエコノミーだけでなく、労働者、ビジネス、サービスをサポートするすべての人々によって構成されているという戦略的認識である。

## パンデミックシティへの権利 BY MICHAEL FICHMAN

夜間の「都市の権利」をめぐる対話は、パンデミックの流行の中で新たな局面を迎えている。第1章（屋外空間と音の管理）では、民間の商業利用をいつ、どこで、どこで、どのようにして公共空間に拡張するか、ソーシャルディスタンスを置いたイベントの概念を許容するかどうかについて、都市がどのように取り組んでいるかを探った。

デトロイトのモーターシティとその周辺では、路上でのドラッグレース（倉庫パーティーのようなもの）が、最も騒がしく最も人気のある

違法な夜間活動の一つである。多種多様で多くのファンを持つこのレースは、事故や騒音の多さでも知られる。近年では、それ以前のアンダーグラウンド・ミュージックのように、アンダーグラウンド・ドラッグ・レースは企業の正当性を示すいくつかの事例にクロスオーバーし始めた。今では、自動車メーカーがデトロイト空港で開催されるモーターシティ・ショーダウンのようなイベントをスポンサーしている。



今年は健康面の懸念から、主要な合法イベントはキャンセルされた。今回のドラッグレースや規制される音楽イベント・エンターテインメントの代わりとなっているのは、自然発生的なイベントだ。このことは、どのような活動やコミュニティが Covid 下に緩和的な方法で都市を利用したら制裁を受けるに値するのか、という問いをもたらす。その答えは、 - 「Global Nighttime Recovery Plan」チャプター 5: 夜間都市の政治とガバナンスの主題 - を通して深掘りしていきたい。

# 03 ILLUMINATION

## 明かりを照らし続ける

適切に設計された照明（ILLUMINATION）は、安全で魅力的な夜の場を実現する上で非常に重要である。

人々が目的地を識別するために視認性の確保が必要というだけでなく、目的地と目的地を安全で快適に移動するためには経路が明確に分かる必要がある。24時間を最大限に活用しようとする都市にとって、営業時間や昼間の活動を夜まで延長するためには、適切に設計された照明が不可欠である。

Covidの勢いを弱め、再利用されるようになった市民交流のためのパブリックスペースは、2020年の春と夏に私たちが学んだプロセスを踏襲することになるだろう。新しい試行プロジェクトの設計と管理を正しく行なえば、その持続的な価値を実証することができる。同時にパンデミックによって引き起こされた混乱を、既存のスペースを再評価しその価値を最大化するため光を用いて再活性化させるチャンスとして利用することもできる。

この章では、長期的かつ恒久的な政策提案と並行して、素早く簡単な照明とデザインの介入を提案する。これは「どのように都市を照らすのがベストなのか」というガイドではなく、ダイナミックな時代を生き抜くための実験的なガイドだ。今こそ大胆に、想像力に富んだ計画や革新的なアイデアを試してみたいだろうか。

### i. 光の力と関係する人々を歓迎する

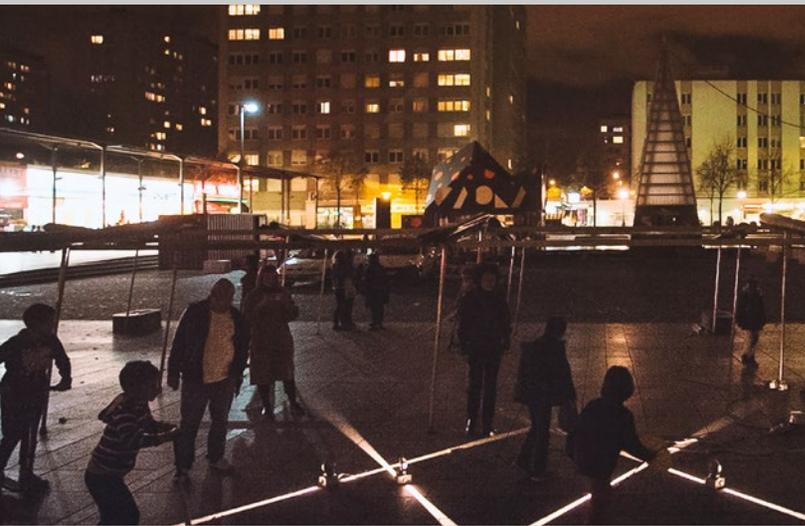


— PHOTO: LENI SCHWENDINGER  
クイーンズ（ニューヨーク州）のイルミネーションで飾られた店舗や店舗は、歩行のしやすさを促進する多様なストリートウォールを提供している。

光は、街の強力な磁石となる。シンプルな照明でも、人々を魅了し、さらに公共のライトアートやメディアのディスプレイはランドマークとしての役割を果たし、地域のアイデンティティーを高める。

光の特性は、フレンドリーな環境を作り出すことができ点にある。また、公共スペースとプライベートスペースを光で区切ったり、人々を誘導することにより、Covidの感染防止にも役立つ。

儂い光でさえも、空間やアメニティデザインと統合することで、混雑を減らして感染の拡大を抑制できる。都市の安全な交流や通行量を促進することができるため、光はナイトタイムの強力なデザインツールとなる。



– PHOTO : DON SLATER / CONFIGURING LIGHT  
パリ、フェテ広場での屋外ワークショップ。



– PHOTO : LENI SCHWENDINGER  
スウェーデンのアリンサスにある空の駐車場が、数時間後には「軽快な遊び場」と化す

## ii. 適応性：移動および居住のためのライトを展開する

パンデミックの影響で、人々は夜だけでなく昼間も外出することに不安を感じている。そのため、魅力的で安全で面白い場所を開発することで、この不安を和らげることが重要になる。

都市空間での生活にとって、日没後に安心して休める場所を提供することは、特に女性や深夜労働者にとって重要である。明るく照らされたシェルター、公共空間での休憩場所が、働く場所と住む場所の間に提供されていることがのぞましい。フードトラックもまた、安全な照明付きのスペースを提供し、深夜の時間帯にも食事を届けることが可能である。

「安全」は、人との親密さによって与えられるものでなく、ソーシャルディスタンスを意味するようになってきた。人と人の心理的障壁が大きくなっていく中で、照明はこのような壁を打ち消し、暗闇の中でも来る人の安心感を高めるのに役立つだろう。



PHOTO : CLAY LECONEY



PHOTO : WWW.MONTREAL.CA  
光のプールは、境界線を明確にすることができる。

# 03

## ILLUMINATION

明かりを照らし続ける



PHOTO : CARLOS PARDO

舗装、または道路の表面は、境界線、方向、および特定の場所、例えばゼブラ交差点、および Covid 関連のソーシャルディスタンスの距離を測る目安などにも利用可能だ。これらの例では、ユニークな投射された光の標識が表示されている。



PHOTO : LENI SCHWENDINGER LENI SCHWENDINGER

都市は、夜間の交通・交通プログラムを実施しており、これらのプログラムは、照明と組み合わせることで、安全性に強力に対応している。

# 03 ILLUMINATION

明かりを照らし続ける

## ナイトスペースは仕事場だ：Light is Right



PHOTO: LENI SCHWENDINGER  
フードトラックは、信頼できる照明付きの停留所です。

文化、エンターテインメント、サービス業の労働者、イベント会場の管理者、オーナーなど、パンデミックの影響で規制を受けながらも、夜の仕事をしている人たちが注目されている。また、IT 技術者からオフィスの清掃員、病院のスタッフからコールセンターのオペレーターまで、夜間シフトで働く労働者は、シフトの前後に夜の街を移動しなければならない。運送ドライバー、セックスワーカー、路上清掃員、あるいはラゴスの路上で見られる「ナイトウォッチマン」（家庭や地域社会を守る団体）にとっても、夜の道は彼らの仕事場である。

これらの労働者は、肉体的にも精神的にも過酷な状況で働かなければならない。夜勤労働者の条件はパンデミック前から、最初から不公平である。シフトワークによる障害（睡眠と覚醒のサイクルが乱れることで起こる）から、女性に対する暴力や嫌がらせまで、ナイトワークには多くの危険がつきものである。さらに、路上生活者にとっては、彼らの唯一の選択肢はしばしば路上であるかもしれない。歴史的に、夜の労働者は目に見えず、昼間の労働者よりも脆弱であることが多く、彼らの健康と安全を高めるために効果的で適切な「光」が必要である。

## 24 時間都市ラゴスはパンデミック時代に適応する BY MICHAEL FICHMAN



PHOTO: CHRYSTEL OLOUKOÏ

ナイジェリアのラゴスは、長い間 24 時間営業の都市であり、夜間の活動、取り締まり、照明などの非公式なパッチワークが特徴であり、経済的な階層化が進んでいる。渋滞と非効率的な交通手段の問題を抱えているため、通勤時間は非常に早く始まり、遅く終わることが多い。

夜間のラゴスの移動は困難である。住宅地では民間の夜警が通りを封鎖し、住人にのみアクセスを許可している。パンデミックの影響で、正式な契約を結んだ夜警は出勤できず、貧しい地域では警備に支払いを回せなくなり 2020 年初頭のロックダウン中には盗難が増加した。

発電機を使った照明を使った夜間のポップアップ施設では、食べ物、娯楽、またはセックス・ワークが提供され続けている。彼らの大部分が門限（時短営業要請）を無視してきた。照明の配置は経済的にも階層化されており、経済的地位の低い地域では、監視用の照明やポップアップ店舗による光が街を照らす。



PHOTO : LAURA MENDOZA

一部の国では、「デザインされた」照明は、経済的にも生活の質にも優先されていない。これらの例は、コロンビアとスペインの最小限の照明 - 全く何もないよりも良い - を表している。

## 照明の課題に対する解決策の例

都市	解決策
イラン / イスファハン、 ナクシェ・ジャハーン広場	イランでは、公園でもショッピングモールでも、暗くなってから公共の場所でピクニックをする習慣がある。時々、緑地が利用できるが、十分な照明がないとき、人々は携帯用ガス照明の源を持って来る。「ピクニックガス」として知られるこれらのライトは、ポータブル LED 照明への道を与えている。
コロンビア / ボゴタ、 アメリカ / ニューヨーク	ボゴタの A Cielo Abierto (ボゴタ・オープンスカイ) プログラムは 2020 年 9 月に開始。 ニューヨーク市の 4 万 8,000 店のレストランとその大半の女性の労働力に利益をもたらすために、街の空気の活性化を図った。ニューヨーク市のオープン・レストラン・プログラムにより、2020 年には 10,000 軒以上のレストランが歩道や道路に進出することが可能になりました。「ストリング照明」と他のシンプルで費用対効果の高い、柔軟性のある一時的な照明アプリケーション：すなわち「DIY 照明」を組み合わせている。
イギリス / サルフォード	Salford の Lighting the Legend イベントは、2017 年に Ordsall Community Arts が主催したランタンパレード。この地域で最も愛されている建物を祝うもので、親、子供、店主、市民団体を巻き込んでランタンを作るという毎年恒例の愛されているイベント。
オーストラリア / アデレード	2020 年 1 月に開始されたアデレード・メトロの深夜ホームゾーンは、公共交通機関や個人の乗り物を利用するための深夜の交通収集専用エリアだ。これら 4 つのエリアは、安全性を高め、犯罪の恐れを減らすために照明を強化し、公共の領域の外観を改善し、より良い道案内を特徴としている。
厳選された場所での巡回、 仮設インスタレーション。 イギリス / ロンドン、 カナダ / モントリオール、 アメリカ / ボストン・シカゴ・ ニューヨーク、 オーストラリア / ブリスベン	モントリオールの Quartier des Spectacles Partnership によるパブリック・アート・プロジェクトは、遊び心のあるシーソーのシリーズで構成される。この作品は、インスタレーションで遊ぶことで、利用者との間にソーシャルディスタンスをとることを可能にする。

# 03

## ILLUMINATION

明かりを照らし続ける



PHOTO: SHAHABEDIN ZEINI ASLANI



PHOTO : DELICIAS DE LA VEGA :  
コロムビア・ボゴタ



PHOTO : LENI SCHWENDIGER

**East buses**

**Street E1**  
 en Grove via O-Bahn  
 le Park  
 bury  
 view Park via O-Bahn  
 nt Barker

**Street V2**  
 Lakes

**William Street X2**  
 ton  
 Farm  
 ler via Elizabeth  
 aphore via Arndale

**William Street C2**  
 foyle Hub via Marion  
 on  
 ord via Noarlunga

**Drop point**  
 2

**Offers:** Real Time travel info

CCTV    Lighting    Police patrols

PHOTO : WWW.WINNIPEGARTS.CA



PHOTO : WWW.WINNIPEGARTS.CA

"よくデザインされた照明は、都市のファブリックに驚き、美しさと喜びを吹き込む機会です。それは他のどのような媒体にもないエフェメラルな方法でユニークな場所と経験を作成することができます。屋外環境が Covid-19 後の私たちの都市の経済的、社会的復興に大きな役割を果たすことは間違いありませんが、これを単なる日中だけの出来事として捉えていると、時間と場所としての「夜」の重要な役割を見落としてしまう。"

- MARTIN LUPTON、ライト・コレクティブ

"屋外照明によりソーシャルディスタンスを自然な形で表現することができる。視覚的な境界線を作ることで、ドラマチックな華やぎをもって、安全に交流を行うことができるシビックセンターに人々を引き付けることができます。"

- MICHAEL STILLER、アップライト

"ポスト Covid-19 の都市の未来のために私が夢見ているのは、真珠の糸のように光ったり、光のサインで認識できるような、無造作なパンくずのように、キラキラと輝くパブリックスペースです。これらの場所は愛され、夜のオアシスへと発展していきます。"

- LENI SCHWENDINGER、ナイトシーイング

## CASE STUDY : ロンドン、キングスクロス - 妖精の光から光の祭典まで

2015年、建築家スタントン・ウィリアムスと照明デザインの StudioFractal によるロンドン最大の交通ハブであるキングス・クロス周辺の公共広場の再設計が完了した。この柔軟性のある空間には、標識、色、光、そして「グッドプラクティス・イルミネーション」のいくつかの例によってマークされた駅の出入り口が組み込まれている。設計は多くの要素を特色にする - 柔らかく光る一般的な光、涼しい / 暖かい対照的な光、ベンチ、構造物および植栽、キラキラとしたライトで照らされた分かりやすい入口および出口。これらにより、訪問者や夜間勤務者、居住者にとっても誰でも歓迎する雰囲気が醸し出されている。

キングスクロス駅は、1日に約14万人が利用する主要駅だ。夜の広場は、バスや地下鉄を利用して区内を行き来する通勤者、長距離の旅行者、学童、近くの市民施設（例えば、大英図書館）に歩いて行く人々にとって歓迎されているように見える。このセクションで述べたように、最も安価な照明技術は、フェストン、フェアリーライト、スワッグ、またはシードライトとして知られている非常に柔軟性の高い直視型の光の「ドット」である。

洗練された技術の大躍進の中で、この魔法のような灯りを響かせる魅力的な例がある。キングスクロス駅の前庭には、小さくて間接的な視界調整が可能な照明器具が2本のタワーに取り付けられています。小さなイルミネーションのドットによる優雅な塔は、高さがありながらも繊細で堂々とした身体的なフォームファクターを生み出している。これにより歩行者移動空間が明確になり、明るく照らされた魅力的な空間となっている。背景は金色の煉瓦のファサードに投げかけられる暖かいライトである。周囲は照らされた木および縦の線形ストリップによってつけられる実用的な構造によって印付けられる。建物内の光は暖かく、屋外のギャザリングスペースの光は中性のクールな色である。

完璧なスケールのパブリックアートのインスタレーション、IFO (Identified Flying Object、別名鳥かご) は、キングスクロスとセントパンクラス、近くのグラナリースクエアとコアルドロップスヤードの間のピボットポイントである横に設置されている。この広場では、リュミエール・フェスティバルが開催されたり、野外コンサートやその他の文化イベントが開催されたりしている。



PHOTO : LORNA WESTWOOD



PHOTO : BIT CLOUD

# 04 MOVEMENT: HELPING PEOPLE ACCESS CITIES AFTER DARK

## MOVEMENT：都市への夜間アクセス支援

MOVEMENTとは、私たちが都市間を往来する移動手段の総称である。これには、公共交通機関（バス、地下鉄、電車）、アクティブ移動手段（自転車、スクーター、ウォーキング）、自動車（自家用車、タクシー、ライドシェア）、電動スクーターやバイク（カーゴバイクも含む）など近年台頭している「マイクロモビリティ」、さらには車椅子や乳母車を使った移動などあらゆる移動手段を含む。

交通機関には、安全性、適正価格、効率性、信頼性、インクルーシブ、これらの要素が担保されてなければならない。特に夜間の移動においては安全性が重要となる。しかし、現状では、Covid-19 禍以前でさえ、夜間移動計画が整備されている都市はほとんどない。

この Covid-19 禍の危機的状況を機に、夜間、ナイトライフをエンジョイする人たちだけでなく、夜通し仕事に従事する人たちにとってより安全で効率的な移動手段の体制を構築する必要がある。

このセクションでは、移動手段に関するこれまでの成功事例と新たな取組について検証し、今後数ヶ月間で、迅速に各国の都市に導入可能で、かつ、その後も長期的に維持継続できる、安全な都市部移動について検討していきたい。

" 仕事やエンタテインメントの目的で夜間に都市を訪れる人たちのために適正な移動手段を提供することは、都市政策における重要な要素だ。幸運にも、夜間バスの走行本数の拡大や、「セーフルート」や自転車通勤を奨励する「Bike to from work」運動など自転車の安全走行を後押しする取組など、交通分野の安全性・信頼性・サービス改善を促す新たな動きがいくつも見られる。モビリティの急激な変革によって、こうした流れはより顕在化し、都市部の移動手段の長期的改善にむけ採用されている。"

- CARLOS PARDO



PHOTO: CHRYSTEL OLOUKOÏ

# 04 MOVEMENT:HELPING PEOPLE ACCESS CITIES AFTER DARK

## MOVEMENT：都市への夜間アクセス支援

### i. ナイトプルーフイング NIGHT-PROOFING： 夜間における移動戦略のが機能するために

「平常時」であっても、多くの市街地では、夜間の移動手段や交通手段は脆弱か、そもそも存在すらしないことが多い。自転車利用者や歩行者のための、安全で照明設備の整ったインフラの欠如や、交通機関の法外な価格設定などは、まさに課題の一例である。このような夜間経済の優先順位の低さは、労働者たちを含め、都市を訪れる多くの人たちにマイナスの影響を与えている。実際、感染症拡大が最初に発生した当初、いくつかの都市では、乗客数が激減したことを理由に、いち早く夕方・夜間の公共交通機関サービスの削減に着手した。都市で働く多くの労働者が依然として公的交通手段に頼っているにもかかわらず、費用が高額になり、サービスを利用することが難しくなったり、不可能になるなどの状況が発生した。



PHOTO : JUAN ROJAS

## ii. マルチモダリティ（多様性）： 暗くなってからの選択肢とアクセスを最大限に増やす

多くの都市ではすでに、短期的・長期的にウォーキングやサイクリングといった「アクティブ移動手段」用のインフラを整備することで、自家用車や商用車の利用削減の兆しが見えてきている。感染症によって、都市は道路閉鎖、交通量の少ない地域（LTN）への対策、公園や公共スペースの再配置といった課題への対策機会を与えたとも言える。

車の数が減ることは、大気汚染や騒音公害の減少、都市環境への悪影響に歯止めをかけることにつながる。世界の都市では、サイクリングやシェア自転車が急増している。特に、道路閉鎖によって外食産業が影響を受けた夜間にそれが顕著にあらわれている。感染症によって、ある意味、都市部やその近隣地域の将来像の選択肢が見えてきているとも言える。

しかし、2020年後半には、かつては活気のあったビジネスの中心地（CBD）やエンターテインメントの中心地は、人々の移動することへの恐怖心、在宅勤務の増加、国内外の観光客の減少などにより、人の流入が大幅に減少し深刻な打撃を受けている。公共交通機関の混雑を緩和し、車移動の増加を回避しながら、都市へのアクセスを可能にするためには、効果的な「マルチモダリティ」を導入し、奨励することがこれまで以上に重要である。長期的には、感染症により、都市部が店舗、企業、歓楽街へ過度に依存し、それが持続可能な都市のあり方でないことが明らかになった今、より活力のある土地利用の組み合わせを実現する都市計画を検討することが必要だ。

一方で、人々が自宅や自宅の近くでより多くの時間を過ごすようになったことで、居住地周辺の地域は予想外の盛り上がりを見せている。これにより地域へさまざまな利益をもたらす一方で、さまざまな対応が求められる。例えば、歩行者の増加に対応する歩道や、十分な座る場所の確保、照明の整備、自転車置き場の確保などである。さらには、人々が自宅から短い距離であっても車移動を選択すれば、駐車場や渋滞の問題を生み出すことになる。



PHOTO : JASON KRÜGER

## iii. コミュニケーション：

MOVEMENT はオープンで、安全で、歓迎される。



PHOTO : ANDREW GOOK

当初早い段階で、移動における感染リスクが警戒されたものの、移動機関における感染は抑えられている。実際、交通機関で爆発的感染があったという事実は報告されていない。市当局と交通機関の運営会社が、住民、訪問者、労働者に交通機関の安全性と、リスクを軽減するための行動規律を伝えることが極めて重要である。いわゆる夜間の営業（ナイトライフ）が再開している地域では、魅力的で感染リスクの低い移動方法を広くピーアールすれば、多くの人がナイトライフを楽しめるようになる。誰もが今すぐにでも移動を伴う行動を積極的にしたいというわけではないが、夜に人々と交流したい人や、仕事のために移動しなければならない人にとっては、ガイドラインに従えば非常に低リスクで移動することが可能である。

2020 年後半の時点では、「現実と認識のギャップ」があるようだ。積極的かつわかりやすくメッセージを伝えることで、行動変容を促すことができる。換気の強化、マスクの着用、移動時の会話の禁止、短時間の移動（30 分未満）やソーシャルディスタンスの確保などによって、リスクを減らすための役割を果たすことができる。

## 移動の課題に対する解決策の例

都市	解決策
アイルランド / ダブリン・コーク・リムリック	「アイルランド夜間経済タスクフォース」は、2020年8月に大都市における24時間輸送の実現可能性を検討することを目的として設立された。
アラブ首長国連邦 / アブダビ	「ヘルスケアリンク」は、夜間を含む主要な医療従事者を支援するために設定された無料のオンデマンドのマイクロトランジットサービス。
イギリス / ロンドン	ロンドン市長の「ストリートスペース計画」では、「アクティブな移動手段」、交通量の削減、短期的、長期的な歩道の拡張を推進。
コロンビア / ボゴタ	「NUMO モビリティ試験事業」は、3月から医療従事者向けに400台の無料電動自転車を支給。
アメリカ / オースティン	CapMetroのVisual Cleanliness Strategy（視覚的に清潔にする戦略）では、バスの古い布製シートを交換、スタッフが毎日様々な車両を清掃している様子を動画で公開、さらに新しい非接触型の決済技術の導入などの対策が行われている。
アメリカ / フィラデルフィア	SEPTAの車両気流に関するコミュニケーション戦略では、各車両の空気交換率に関する詳細な情報を公衆衛生当局からの報告書に組み込んでいる。
グローバル	Let's Roamは、世界中の徒歩圏内の地域との関わりを深めるあらゆる活動の情報を集めたデータベース。夜間のアクティビティも紹介。



PHOTO : CARLOS PARDO

## CASE STUDY :

## インド・ムンバイ - 女性にとっても、すべての人にとっても、より安全に

「セーフシティ」とは、スタンフォード大学、バイタル・ボイス、米務省が支援するムンバイで実施されているプロジェクトである。女性のための、特に夜間におけるより安全な都市の実現とモビリティ体験の提供を目的としたプロジェクトであるが、特徴的なのが、女性のためのプロジェクトでありながら、結果として、すべての人にとってより安全な都市体験を提供していることである。ユーザー体験調査、都市デザイン監査、アプリを活用したレポート等、様々な取組によって、企画者、交通機関、土地所有者、支援団体といった関係者が、どこで、いつ、なぜ女性が安全だと感じないのかについて、正確な情報を得ることができ、危険地域の特定が可能となる。

都市は、この Covid-19 禍において、独自のビジョンを再構築する機会を得た。各都市は、多様な全ての人々にとって、街の安全性の確保を目指すべきであり、また夜間においても安心して過ごせる街を構築しなければならない。

セーフシティ・チームは、駅、交通機関のインターチェンジ、道路、交差点、マーケットなどにおいて独自のメソッドを使い、セクシュアル・ハラスメントや犯罪が日常的に発生し女性の安全を脅かす場所を特定することによってこうした課題への取り組みを行った。(ニューデリーの女性の 92% が公共の場でセクシュアル・ハラスメントを受けたと報告されている。このような環境では、少女や女性にとって街の利用における平等性が担保されず、社会への参加と個人の成長、両方を阻止していると言える。)

セーフシティは、規模や発展段階に関わらず、どのような都市にも適用可能な 10 の原則に基づいたプロジェクトだ。例えば「路上の監視」「都市設計プロジェクトへの女性の参加」「都市の労働力への女性の参加と可視性の向上」(例：夜間の女性タクシー運転手の増加)。また、労働者や社会的な場に参加する人々が夜間に安全に帰宅できるようにするための「ラストワンマイル」監査など、基本原則は多岐にわたる。安全な居住区のためのセーフシティ・キャンペーンに参加した女性と少女の 80% が、夜の 7 時以降の公共空間をより自信を持って通行することができるようになったと答えている。

- ELSAMARIE DSILVA

感染症の拡大は、文化、社会、経済、そして私たち一人一人に大きな影響を与えている。新型 Covid-19 ウイルスとその影響による様々な困難によって、我々は、度重なる変更、環境への柔軟な対応力、難しい課題への決断力を求められてきた。一方で、これは、より良い夜の街を再構築するチャンスでもある。本章では、未来のナイトタイムを創造するための都市計画に、現在の条件下でアドバイスとなりうる情報を提供する。

感染症の拡大によって、医療、交通機関、製造業、夜間サービス業等に従事する人たちの賃金や労働環境の劣悪さに人々の注目を集めることになった。さらに、夜間事業、イベント、アート、ホスピタリティ関連サービス等が提供する価値を再確認する結果となった。これは、単に、私たちがこれらの場を訪れることができなくなっただけでなく、これらの事業に従事する膨大な人たちが危機的な状況にあり、さらには夜間事業そのものの存在自体が危うい状況にあるからである。

私たちがすべきことは、街の根本的な変革への着手だ。今、その変革に着手しなければ、夜の街への意識は消滅し、例え数年後に Covid-19 前の状況に戻ることができたとしても、街はかつての輝きを失ってしまうだろう。本章では、先進的な都市が、ナイトライフを豊かにするための具体的な戦略立案と実践的行動にすでに着手していることを示してきた。そして、従来の「ナイトタイムエコノミー」への理解は、豊かな社会的・文化的生活のために必要な夜間都市に関する新たなビジョン策定、計画立案、対応策へと変化していることが明らかである。

今回本章で紹介した事例は、世界中の多くの都市で参考にさせていただきたい。都市の課題解決に活用するだけでなく、夜間事業が恐るべきものではないことに気づき始めている世界中の多くの都市に、情報共有していただくことを期待する。ナイトライフは都市の競争力であり特徴であり、一貫する文化である。我々の DNA といっても過言ではないだろう。

- ALISTAIR TURNHAM

### ACTIVATION

#### Angela Hartnett and José Pizarro launch Bermondsey Street hospitality Campaign

<https://www.bighospitality.co.uk/Article/2020/09/03/Angela-Hartnett-and-Jose-Pizarro-Bermondsey-Street-Eat-Out-Help-Out-extension-campaign-initiative>

#### Mayor of London Responds to Night Time Commission' s Advice

<https://accessaa.co.uk/mayor-of-london-responds-to-nighttime-advice/>

#### Light Shows and Live Bands: China Wants to Boost its Nightlife to Spur Economy

<https://www.cNBC.com/2019/09/20/china-promotes-nightlife-nighttime-activities-to-boost-economy.html>

#### Relaxed Liquor Law Trial Potentially Extended, Residents Concerned about Flow On Effects

<http://2nurfmnews.blogspot.com/2020/09/relaxed-liquor-law-trial-potentially.html>

#### Vietnam Mulls Prolonging Night-Time Entertainment in Major Cities to Boost Economy

<https://e.vnexpress.net/news/news/vietnam-mulls-prolonging-nighttime-entertainment-in-major-cities-to-boost-economy-4137915.html>

### ILLUMINATION

#### Adelaide Metro Late Night Home Zone

<https://www.adelaidemetro.com.au/Timetables2/Special-services/Late-Night-Home-Zone>

#### An Interactive Light-Sound-Playground Installation that is Automatically Physically Distanced

<https://www.creos.io/en/portfolio/impulse/>

#### Asian Cities Virus-Proof Public Transit with Smart Shelters, Thermal Scanners

<https://www.kcet.org/coronavirus-worldwide/asian-cities-virus-proof-public-transit-with-smart-shelters-thermal-scanners>

#### 'Bogotá a Cielo Abierto' : así reactivaremos el sector gastronómico

<https://bogota.gov.co/mi-ciudad/desarrollo-economico/bogota-cielo-abierto-para-reactivar-el-sector-gastronomico>

#### Enlivening Public Space at Night, an International Overview of Light/Art/Festivals

<https://artsu.americansforthearts.org/products/enlivening-public-space-at-night-an-international-overview-of-lightartfestivals>

#### Guerrilla Lighting

<https://lightcollective.net/light/ing/guerrilla-lighting>

#### International Labour Organization and UN Women' s Handbook

<https://www.unwomen.org/en/digital-library/publications/2019/03/handbook-addressing-violence-and-harassment-against-women-in-the-world-of-work>

#### Lighting Detetives

<https://shomei-tanteidan.org/en/>

#### London' s Think Night Report

[https://www.london.gov.uk/sites/default/files/ntc\\_report\\_online.pdf](https://www.london.gov.uk/sites/default/files/ntc_report_online.pdf)

#### LUCI Association

<https://www.luciasociation.org/>

#### More Lighting alone does not Create Safer Cities. Look at what Research with Young Women tells us

<https://theconversation.com/more-lighting-alone-does-not-create-safer-cities-look-at-what-research-with-young-women-tells-us-113359>

# 06 FURTHER READING

## 参考文献

### **New York City Open Restaurants Program**

<https://www1.nyc.gov/html/dot/html/pedestrians/openrestaurants.shtml>

### **Nightlife Workers Speak out about Living and Working through Covid-19**

<https://abcnews.go.com/US/impact-coronavirus-nightlife/story?id=70904736>

### **NightSeeing - Navigate Your Luminous City**

<http://www.nightseeing.net/>

### **Salford Landmarks Brought to Life at Lantern Parade**

<https://www.salixhomes.co.uk/news/salford-landmarks-brought-life-lantern-parade-0>

### **“Sleepless and invisible” : The Hidden Story of London’ s Night Workers**

<https://www.prospectmagazine.co.uk/arts-and-books/sleepless-and-invisible-the-hidden-story-of-londons-night-workers>

### **Shift Work Disorder Symptoms**

<https://www.sleepfoundation.org/shift-work-disorder/symptoms>

### **Who Works the Night Shift?**

<https://www.pbs.org/livelihood/nightshift/who.html>

## MOVEMENT

### **Abu Dhabi Launches Free Bus Service for Medical Workers**

<https://www.arabnews.com/node/1655671/corporate-news>

### **After Coronavirus, Bicycles will have a New Place in City Life**

<https://fortune.com/2020/06/15/bicycles-coronavirus-cities-lime-citi-bike/>

### **Apple Mobility Trends Reports**

<https://covid19.apple.com/mobility>

### **Bogotá Company Deploys 400 Free E-Bikes to Help Health Workers Respond to Covid-19**

<https://thecityfix.com/blog/bogota-company-deploys-400-free-e-bikes-help-health-workers-respond-Covid-19-carlos-pardo/>

### **Cosmic Cars: Techno and Drag Racing in Detroit**

<https://www.youtube.com/watch?v=bYn4CyL3r5w>

### **First Legal Drag Races in Detroit**

<https://www.candgnews.com/news/first-legal-drag-races-roar-through-detroit-104469>

### **Let’ s Roam – Imaginative Example of Local Walking Programs (Global Locations)**

<https://www.london.gov.uk/press-releases/mayoral/mayors-bold-plan-will-overhaul-capitals-streets>

### **Mayor’ s Bold New Streetspace Plan will Overhaul London’ s Streets**

<https://www.business.com/articles/swot-analysis-for-small-business-planning/>

### **Minister Martin hosts first Night-time Economy Taskforce**

<https://www.chg.gov.ie/minister-martin-hosts-first-nighttime-economy-taskforce/>

### **The New Passenger Experience: In a Covid-19 World, Communicating about Cleanliness is Key**

<https://www.masstransitmag.com/management/article/21150016/the-new-passenger-experience-in-a-covid19-world-communicating-about-cleanliness-is-key>

### **Philadelphia’ s Traffic Congestion was Bad Before the Pandemic. It Could get Worse.**

<https://www.inquirer.com/transportation/philadelphia-traffic-congestion-covid-pandemic-cars-septa-20201005.html>

### **SEPTA Trains and Buses have Great Airflow — Which Means Less Coronavirus Risk for Riders**

<https://why.org/articles/septa-trains-and-buses-have-great-airflow-which-means-less-coronavirus-risk-for-riders/>

### **Woodward Dream Cruise Cancelled**

<https://www.freep.com/story/news/local/michigan/oakland/2020/06/29/woodward-dream-cruise-2020-officially-canceled-board/3279975001/>

# 07 Project Team

## CONTRIBUTERS

### CHAPTER LEAD:



**Alistair Turnham** is the founder of nighttime city experts MAKE Associates. He has been creating nighttime strategies for over 20 years. He helped develop the Purple Flag accreditation scheme 'for better cities at night' and is a former Special Adviser on the nighttime economy to the UK Government. He is currently working on a project for the Mayor of London measuring the costs and benefits of 'later opening London' .



**Leni Schwendinger** is a published, award-winning authority on issues of city lighting, with more than 20 years of worldwide experience creating illuminated environments for infrastructure and public spaces. Her focus on the darkened hours includes innovative, community involvement methodologies such as "NightSeeingTM, Navigate Your Luminous City" programme. She directs the International Nighttime Design Initiative which is establishing an interdisciplinary profession. She is a Visiting Research Fellow at the London School of Economics' Configuring Light and a Design Trust for Public Space Fellow in New York City.

### CONTRIBUTORS:



**ElsaMarie DSilva** is the Founder & CEO of Red Dot Foundation (India) and President of Red Dot Foundation Global (USA). Its platform SafeCity crowdsources personal experiences of sexual violence and abuse in public spaces. Since SafeCity started in December 2012, it has become the largest crowd map on the issue in India and abroad.



**Carlos F Pardo** is a Colombian urbanist who, through his work with international multilateral and bilateral agencies and development banks and NGOs, has supported and led sustainable transport projects in Latin America, Africa and Asia for more than 15 years. He is the founder of Despacio.org and is Senior Advisor to the New Urban Mobility Alliance (NUMO).

### INTERVIEWEES :



**Cornelius Harris** is the Label Manager at Underground Resistance and the Vice President at Detroit Berlin Connection. He is a cultural advocate, currently focusing on Detroit culture and its relation to the state, country, and world.



**Dimitrios (Jim) Mastoras** as served for over twenty-three years and is a Master Police Officer in Arlington County, VA, USA. He developed and implemented strategies to reduce alcohol related harm while establishing trustful relationships with restaurant owners. Using Proactive Alliance as the foundation, he created the first restaurant accreditation program in the U.S. In 2019, the DOJ COPS Office published a toolkit he authored titled, The Arlington Restaurant Initiative - A Nightlife Strategy to Improve Safety and Economic Viability, to be used by departments across the US.



**Chrystel Oloukoï** is a PhD Candidate in African and African American Studies at Harvard University. She works on policing and nightlife in Lagos and Johannesburg.

# 07 Project Team

## TEAM

**Michael Fichman** is a city planner, researcher and lecturer at PennPraxis at the University of Pennsylvania's Weitzman School of Design. He is also a nightlife organiser and musician, and is an Emerging City Champions fellowship recipient for his work with 24HrPHL.

**Richard Foster** is PR and Communications Manager at WORM, a Rotterdam-based multimedia alternative cultural centre and network organisation at the intersection of (popular) culture and (performing) arts. His writing appears regularly in The Quietus, The Wire, Louder than War, and other music and academic publications.

Berlin Clubcommissioner **Lutz Leichsenring** + former Amsterdam night mayor **Mirik Milan** are co-founders of VibeLab, which engages, connects, and counsels cross-sector stakeholders to keep cities vibrant and flourishing after dark. VibeLab has consulted on the formation of nightlife offices and commissions in London, Madrid, New York, Tokyo, Vienna, Los Angeles, and more, and continues to facilitate idea exchange and implementation for communities, institutions, government agencies and brands worldwide.

**Diana Raiselis** is a German Chancellor Fellow with the Alexander von Humboldt Foundation, researching the role of nightlife in sustainable cities. She is a founding member of the Los Angeles Nightlife Alliance.

**Andreina Seijas** is a Venezuelan researcher and international consultant in nocturnal governance and planning. She is currently a Teaching Fellow, Research Fellow and Doctoral Candidate at the Harvard University Graduate School of Design.

**Jia Yuan** is a Summer Design Fellow at PennPraxis at the University of Pennsylvania's Weitzman School of Design. She is also an urban planner and researcher focusing on sustainable transportation planning and data-driven planning.

A project of



with support from



## 発行団体



## ナイトタイムエコノミー推進協議会

JNEAは、夜間経済の活性化を観光・文化・街づくりの重要テーマと捉え、政府・自治体・DMO・民間企業間の連携やプロジェクト支援を行うために2019年に設立した組織です。JNEAでは、夜間経済にとどまらず日本の観光産業の発展につながる様々なコンテンツ、また新しい文化の創出の可能性など幅広い視野に立ち、活動を行っています。

代表理事：齋藤 貴弘 (Field-R 法律事務所弁護士)

理事：梅澤 高明 (AT. カーニー日本法人会長 | CIC Japan 会長)、永谷 垂矢子 (株式会社 an 代表取締役 | 立教大学経営学部客員教授)

Project Team Members : Shizuko Yokote, Kana Ito

## 協力

# NEWSKOOL

## 合同会社 NEWSKOOL

NEWSKOOLは、ナイトタイムを起点として様々な分野の課題に解決策を提供するコンサルティング会社です。新しい考え方をもったクリエイティブコミュニティと、蓄積された知見を武器に、今までにない体験や持続可能な経済圏を設計しています。

私たちは、これからのまちづくりの中核を担っていく若者自身でもあることを強みとしています。実際のターゲットと同じ目線で施策を評価したりアイデアを生み出したりすることができます。

私たちの最終目標は、人々が自分にあった生き方を選べる社会プラットフォームをつくること。様々なプロジェクトから得た経験と専門家としての知見を活用し、企業・行政・クリエイティブ人材・消費者を巻き込むナイトデザインを推進していきます。

Project Team Members : Yoshihito Kamada, Kai Kojima, Watanabe Haruna, Kotaro Okada, Momoka Tokunaga